

# HITACHI

## 日立グループにおける GitHub Enterprise / Copilot利用者拡大のための 取り組みのご紹介

Prepared for  
OctoNihon Forum

Prepared by  
日立製作所

Date  
2025/6/6

# 自己紹介

佐山 史織（さやましおり）

日立製作所

デジタルシステム&サービス

AI & ソフトウェアサービスビジネスユニット

アプリケーションサービス事業部 テクノロジートランスフォーメーション本部

日立グループ内に蓄積された幅広いナレッジ・アセットを積極的に活用するための仕組みであるLumada Solution Hub（LSH）の開発に従事

GitHub Enterpriseの導入においては、GitHub Copilotの日立グループ内での展開を推進

現在はGitHubの展開のほか、生成AIを活用したサービス開発を担当している



## 日立グループのGitHubユーザー数の遷移

# 2025/6月時点で、日立グループ全体のGitHub利用者は2,800人を突破

### GitHub Enterprise Server

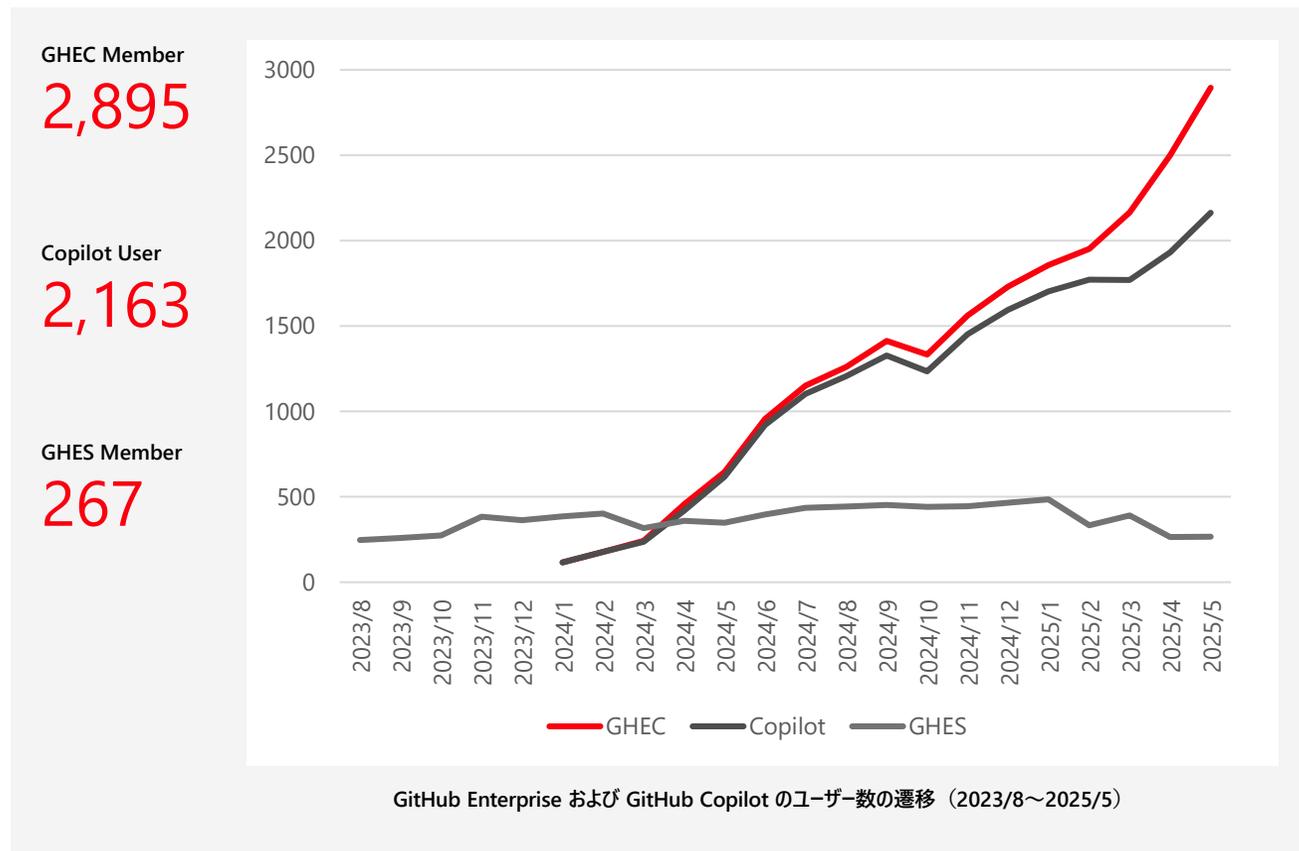
2021年、日立グループ向けにサービス提供開始

### GitHub Enterprise Cloud、および GitHub Copilot

2024年、同じくサービス提供開始

直近1年半弱で利用者は2,500名ほど増加、  
社内開発における生成AIの活用も定着し始めました

本日は、日立グループにおける  
GitHub拡大までの過程について、  
具体的な取り組み内容を交えて  
ご紹介します！



# Agenda

1. GitHub Enterprise 導入の背景
2. 日立グループ内でのGitHub展開の軌跡
3. GitHub展開のポイント
4. まとめ

1. GitHub Enterprise 導入の背景

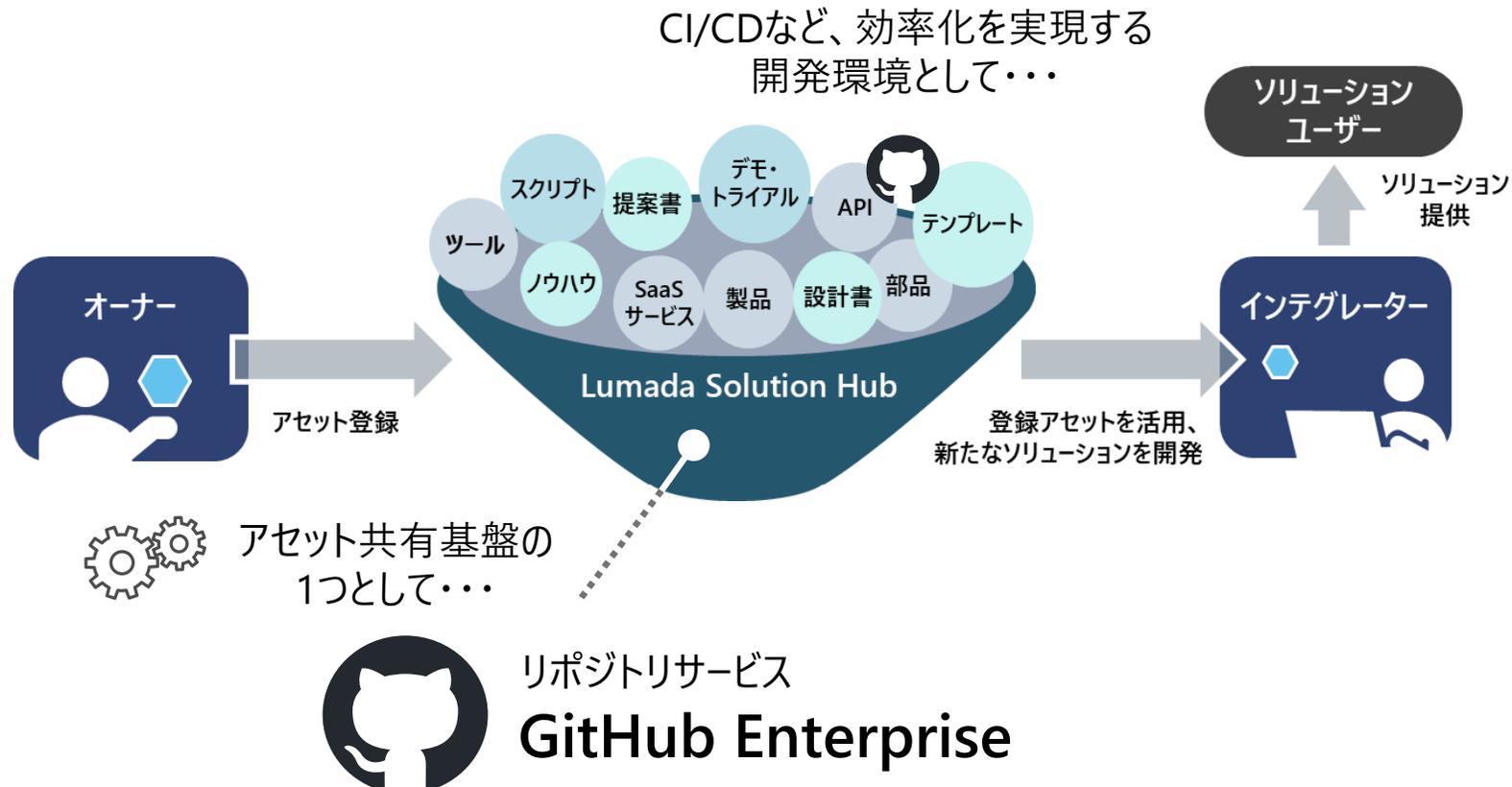
# Lumada Solution Hub と GitHub

## 社内のナレッジを蓄積し、共有する方針とその仕組みにフィット

日立製作所は以前から、開発効率化の方針の下、

日立グループ内に蓄積された幅広いナレッジ・アセットを積極的に活用するための仕組みとしてLumada Solution Hub (LSH) を開発

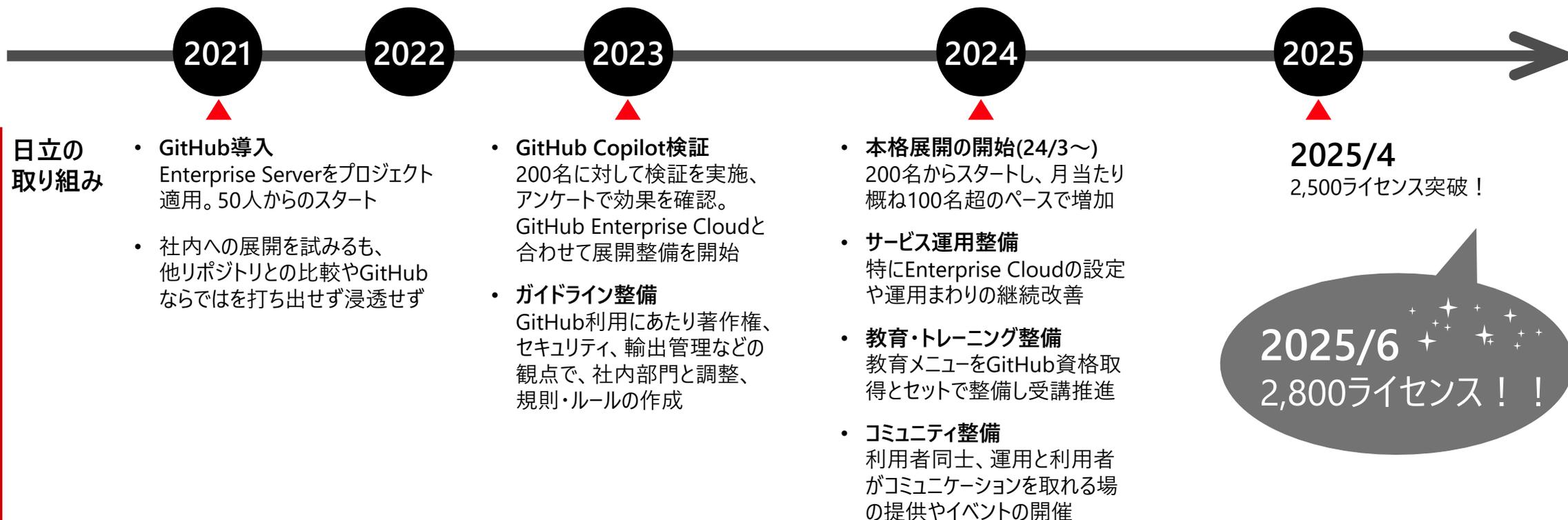
→ ソースコードを共有するための基盤、CI/CDによる開発効率化を実現可能な基盤としてGitHub Enterpriseを採用し、日立グループ向けにサービス開始



現在までの流れ

日立では2021年から、GitHubの導入・利用推進を開始し、ボトムアップで地道に積み重ねて、2025年6月の時点で2,800ライセンスに到達へ

GitHub Copilot リリース



## 導入当初

# GitHub Enterprise Serverを導入 GitLabのシェアが高く、なかなか流行らない

日立グループ内に蓄積された幅広いナレッジ・アセットを積極的に活用するための仕組みであるLSHの活動の一環で、ソースコードを日立グループ内で共有するための仕掛けとしてGitHub Enterprise Server（GHES）を立ち上げ

GitHub Copilot リリース



### 日立の取り組み

- **GitHub導入**  
Enterprise Serverをプロジェクト適用。50人からのスタート
- 社内への展開を試みるも、他リポジトリとの比較やGitHubならではの打ち出せず浸透せず

- 社内のプライベートな環境で利用できるGitLabをすでにプロジェクトで使っている
- プロジェクトで構築したGHESを使っている
- アセットをインナーソースとしてLSHのGHESに集約していくメリットを発信できず

**GitHub Enterprise Serverの利用者が増えず  
アセットも増えない**

そこに転機が・・・

## 生成AIブーム到来 GitHub Copilotの注目度が瞬く間に上がっていく

世の中で生成AIが注目されはじめ、日立としても生成AIの活用に入れ始めた



日立の  
取り組み

社内で「GitHub Copilotを使ってみたい」という人が増え始めた

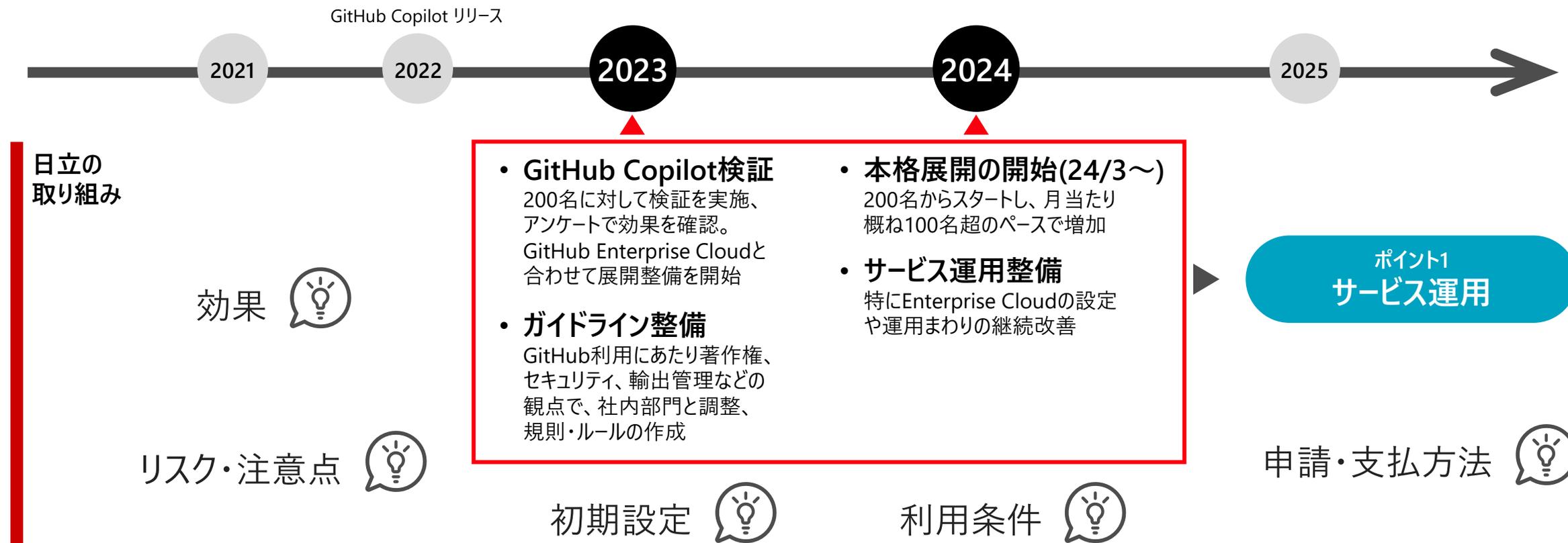


GitHubをホストして社内にサービスとして展開していたLSHチームが  
GitHub Copilotサービスを立ち上げることに！！

## 追い風に乗って

# 価値検証を経て本格展開へ 社内サービスとしての整備を推進

段階的に実施してきたサービス運用の整備は、日立グループ内でのGitHub展開を支える最初のポイントに



2. 日立グループ内でのGitHub展開の軌跡

その後、利用者数が落ち込んだ時期もあり・・・

「拡大」と「定着」2つの視点で施策を検討、各部門への働きかけなども

導入から半年ほどで利用を停止してしまうユーザーが散見され、増やす（拡大）だけでなく減らさない（定着）施策の必要性に気づき、試行錯誤・・・振り返ると、GitHub拡大・定着の取組みとして、教育・トレーニングの施策とコミュニティの施策がポイントといえそう

GitHub Copilot リリース



日立の  
取組み



- **教育・トレーニング整備**  
教育メニューをGitHub資格取得とセットで整備し受講推進
- **コミュニティ整備**  
利用者同士、運用と利用者がコミュニケーションを取れる場の提供やイベントの開催



2. 日立グループ内でのGitHub展開の軌跡

そして 2025年度へ

日々、運用上の小さな更新や拡大・定着の施策を推進中

GitHub Enterprise / Copilotの利用者数は順調に伸びつつある



日立の  
取り組み

引き続き、ニーズや状況に合わせて  
ガイド類の更新、各種の拡大・定着企画を展開

2025/4  
2,500ライセンス突破！

6月現在：2,800ライセンス到達へ

### 3. GitHub展開のポイント

#### ポイント1 サービス運用

## まずは活用の前提となるルールや手続き、設定関連のハードルを最小化

利用希望者がGitHub Enterprise / Copilotをできるだけ負担なく・短期間で使い始められるように、前提部分の整理を実施  
大きくは、次のような施策が必要だった

- ① GitHub Copilot（生成AI）を安全安心に利用するためのガイドライン整備
- ② Enterprise、Organizationを集中管理
- ③ 利用料の個別請求

3. GitHub展開のポイント

ポイント1 サービス運用

① GitHub Copilot（生成AI）を安全安心に利用するためのガイドライン整備

GitHub Enterprise / Copilotを利用するにあたり、利用者が社内ルールや各種法令に従って利用できるようガイドラインを整備

導入に当たり **対応が必要な社内ルールや法的要件は多数！**

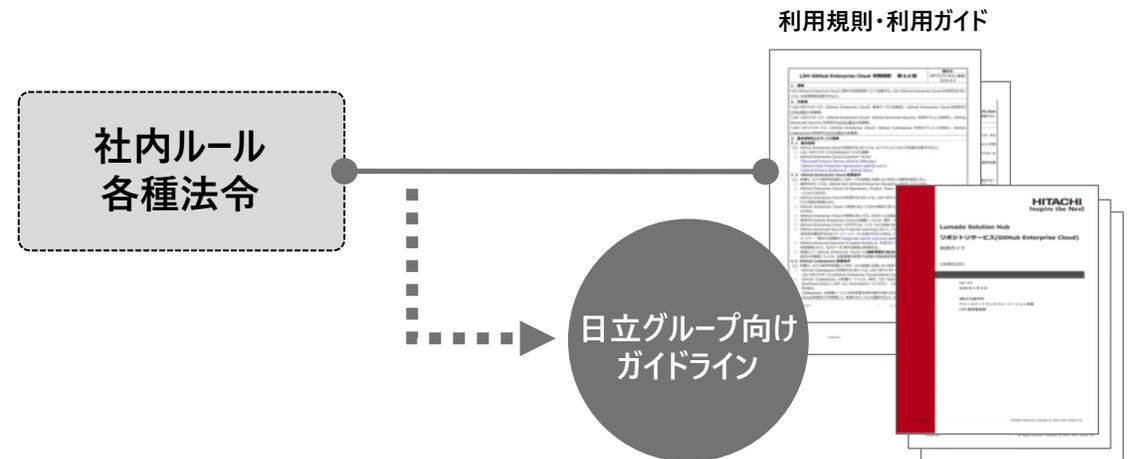
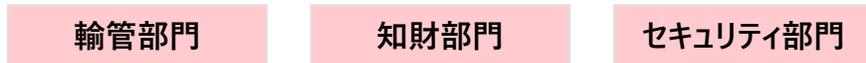
- 輸出管理関連
- セキュリティ対策
- 知的財産のクリアランス・・・など

機能での対応、運営側での対応も明確化するとして、

▶ 「利用者側で守るべき規則・ルール」も遵守してもらう  
必要あり

とはいえ現場の開発者が社内ルールやGitHubのPrivacy Policyを一つずつ確認するのだと負担が大きすぎる・・・

そこで、LSHチームがGitHub Enterpriseのオーナーとして、各部門と協議を重ねながら利用規則や利用ガイドを作成



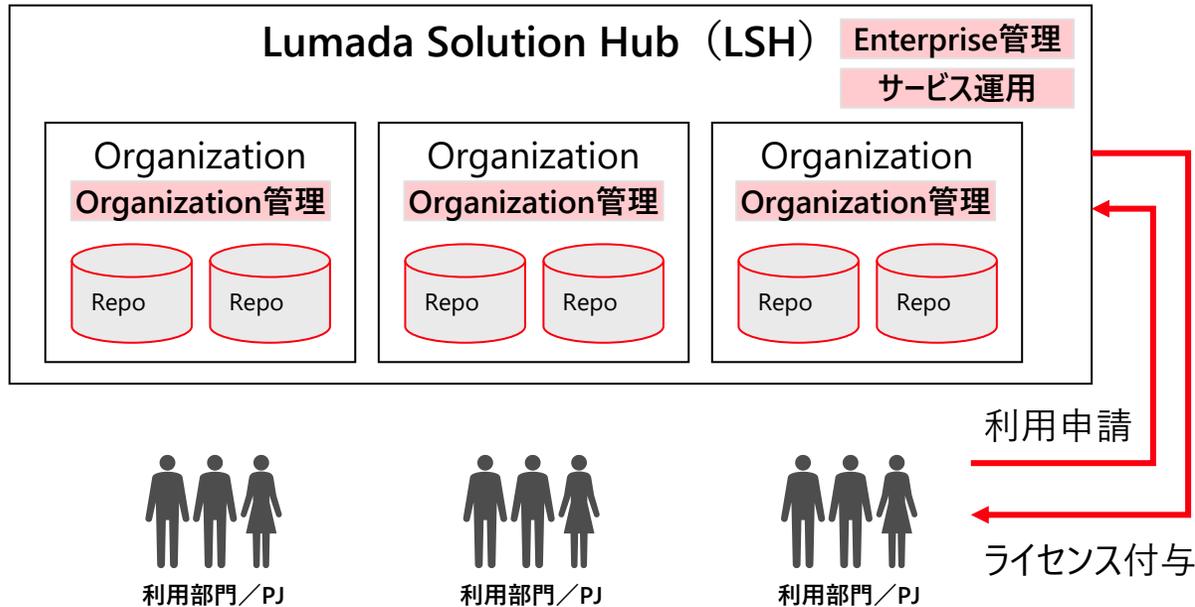
▶▶▶ 現場では、利用規則を遵守し、利用ガイドを確認すればすぐに利用開始できる！

3. GitHub展開のポイント

ポイント1 サービス運用

② Enterprise、Organizationを集中管理

利用会社、部門ごとにOrganizationオーナーを立てる分散管理ではなく、LSHがEnterprise・Organizationオーナーとして環境を中央集権的に管理



LSHチーム (Enterprise/Organization Owner) :

- 利用可能な機能を制限し、利用規則に反していない機能を解放していく
- 社外にリポジトリが不正に公開されないよう、認証、セキュリティ設定は責任を持って実施

利用者 (member) :

- 社内の専用ポータルから、利用申込
- すぐにLSHのサポートチームがライセンスを割り当て

▶▶▶ 現場では各機能を「使う」だけ、セキュリティの設定や社内手続きなしでGitHubを使える！

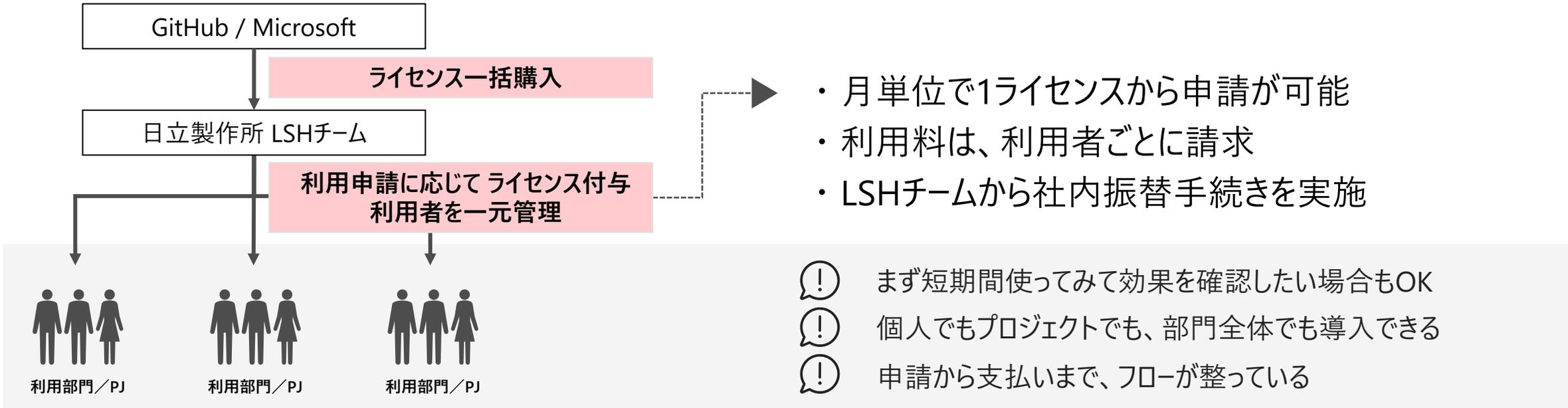
3. GitHub展開のポイント

ポイント1 サービス運用

③ 利用料の個別請求

専用ポータルで登録いただいた、利用者ごとの請求先情報をもとに、LSHチームが利用料（ライセンス料、従量課金費用）を社内振替

日立では、開発環境に係る費用はプロジェクトや利用部門が負担する必要あり



▶▶▶ 現場では、使いたい機能を使いたい期間だけ使えて、契約の手間もわずか！

## ポイント2・3の前提となる「拡大・定着」の施策検討について

# ユーザーを分類し、「拡大タイプ」と「定着タイプ」それぞれの施策を検討

「拡大タイプ」のユーザー向けには、ユーザーを増やすための情報発信や、イベントを実施

「定着タイプ」のユーザー向けには、利用率や満足度を上げるためのイベントの企画、コミュニティの形成 さらには難易度別に教育メニューも体系化

**拡大タイプ** : ユーザー数を**増やす** 施策 

**定着タイプ** : ユーザーを**離反させない** 施策 

### 未認知・未使用

GitHubの存在やライセンスがあることを知らない

- ▶ 紹介セミナー・情報発信

### 活用が停滞

使い方が分からない、活用を推奨されたから使っただけ

- ▶ ・初級者向けセミナー
- ▶ ・教育トレーニング

### 関心あり・未使用

興味はあるが使う機会がない、使ってみないと分からない

- ▶ ハンズオン

### アクティブユーザー

積極的に利用しておりGitHubをもっと活用したい

- ▶ ・中級～上級者向けセミナー
- ▶ ・コミュニケーションチャネル

### 活用に制約あり

プロジェクトでクラウド・生成AIの利用が制限されている

- ▶ ヒアリング・導入支援

### 活用を促進したい

プロジェクト、部、会社で生成AI活用を促進したい

- ▶ 利用者座談会

どちらにも  
当てはまる

### 資格を取得したい

生成AIプロフェッショナル人財育成の一環で資格を取りたい

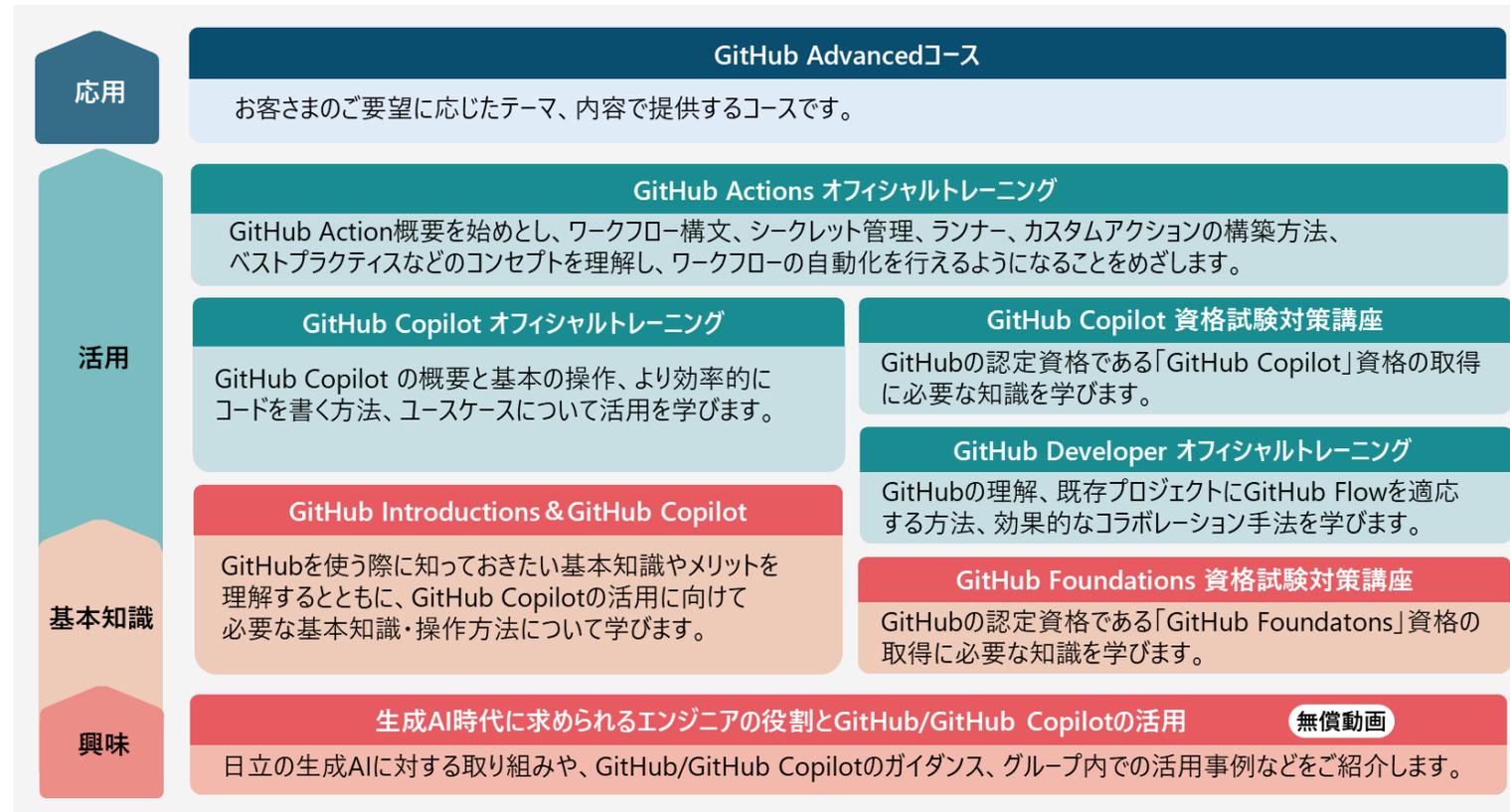
- ▶ 教育トレーニング

3. GitHub展開のポイント

ポイント2 教育・トレーニング

GitHubのトレーニングを社内の教育メニューに組み込み

日立グループ内の教育組織と連携し、GitHubの教育・トレーニングメニューを体系化 → GitHub Foundationsなどの資格取得とも対応づけ、導入しても使い方が分からないという利用者から、GitHubの資格取得をめざす利用者まで、習熟度にあった教育を展開



**資格取得効果**  
 教育・トレーニングメニューを  
 2024年度下期に開始し  
**GitHub Foundations、  
 GitHub Copilot の取得者数**  
  
**100名以上**  
 (2025/3時点 日立グループ内調査)

## 3. GitHub展開のポイント

## ポイント3 コミュニティ

## タイプ別にイベントなどを企画して利用者と交流

GitHub社の方を講師に招いて技術面の情報を拡充したり、社内手続きなどの課題について利用者同士で議論してもらったりなど、拡大・定着のタイプに沿って企画



## 紹介セミナー

- GitHubやCopilotを知ってもらう
- 適用事例を紹介
- トップのメッセージ



## 初級者向けセミナー

- Copilotのユースケースを知る
- デモで機能を紹介
- Q&Aで不明点に回答



## 中級～上級者向けセミナー

- ターゲットを絞る
- チャンピオンを育てる
- 新機能やおすすめ機能を紹介



## ヒアリング・導入支援

- 利用が進まない理由を聞き込み
- 関係部署を巻き込み、改善
- 導入のサポート、事業部向けプラン



## 利用者座談会

- 利用者同士の交流
- 利用部門での取り組み紹介
- LSHチームへのフィードバック



## コミュニケーションチャンネル

- Teamsチャンネルの開設
- 社内ナレッジポータルでの交流
- LSHチームへのフィードバック

## 3. GitHub展開のポイント

## ポイント3 コミュニティ

## 双方向の情報共有で満足度アップ

拡大・定着の直接の効果を狙うとともに、LSHチームが利用者の生の声、要望・課題の情報を入手する機会としても活用



セミナーアンケートコメントより：

- とても参考になりました！
- 日々の業務でTips的に使える情報が欲しい
- モックライブラリや自作のUtilクラスをうまく認識させて単体テストを生成するための方法が知りたい



ヒアリング時の回答より：

- GitHub Copilotの利用について、お客さまの合意を取るのが難しい
- 直接コーディングをする機会が少ない、開発取りまとめ者にも効果や必要性を伝える必要がある



座談会アンケートコメントより：

- 他の部門も同じ悩みを持っているのが分かって良かったです
- 著作権問題の改善に向け、全社にどのように働きかけていくかを議論したい
- 新機能やおもしろい使い方について、定期的に紹介してくれると嬉しい

## 取り組みのご紹介 まとめ

- 日立グループでは社内アセットを共有するための基盤、CI/CDによる開発効率化を実現可能な基盤としてGitHub Enterpriseを採用
- 利用者を拡大するためのポイントは「サービス運用」「教育・トレーニング」「コミュニティ」
- ボトムアップで利用者を拡大・定着させるための施策を進め、利用者数2,800名に到達

## 今後

- 利用者を増やし、社内アセットを蓄積するため、「拡大」「定着」のための施策を継続
- 「GitHubアカウント持ってます？」から始まるコラボレーション、インナーソースを推進する



**HITACHI**